

I. 主に取り組んだ事業（特記事項）

1. 海洋スポーツの普及を目的に、関連公開講座、学長杯オープンヨットレースを開催した。
2. 地域振興を目的に、地域海洋スポーツ関連事業に協力した。
3. セーリング競技等における競技力向上に関する合宿を開催した。
4. 協力者会議を開催し、年度を総括するとともに、海洋スポーツ研究第28号を発刊した。

II. 事業報告

1. 教育（授業に関するものを除く）プロジェクト

新型コロナウイルス感染拡大予防の観点から社会情勢を考慮しつつ、適宜計画を遂行した。

（1）指導者育成

自然体験活動指導者（NEALリーダー）資格取得講習会は、昨年に引き続き中止となった（主担当 中村）。一方で、別途講師を招聘する必要がない「潜水土」の資格について、受験のフォローアップと対策を実施し、受験を斡旋、3名が受験（2名合格）した（主担当 榮樂・笹子）。

（2）小型船舶免許取得講習会の開催（主担当 坂口）

在学生4名が受講し、2名が2級を、2名が1級を取得した。

（3）近隣小学校の海洋スポーツ体験と大学生指導実習の合同開催を計画する（主担当 中村）

令和4年度より鹿屋市立野里小学校と合同開催がスタートした。コロナ禍の影響で、全4回のうち、2回（事前学習と海洋スポーツ活動1回）の実施となった。

（4）海洋スポーツの教育効果に関する調査を実施する（主担当 笹子・中村）

国立大隅青少年自然の家「海からのメッセージ」事業における効果検証の計画を検討した。しかし令和4年度は、コロナ禍の影響で事業が中止となったため、過去7年間の同事業で実施された「生きる力」データを収集して傾向をまとめ、学会発表および論文投稿を行った（主担当 笹子）。

2. 研究プロジェクト

（1）生涯スポーツとしてのSUP（スタンドアップパドルボード）の効果に関する研究

（主担当 中村・榮樂）

SUP運動中のエネルギー消費量の測定を計測実施した（4名）。測定可能な風速・波高等の閾値内であっても実施環境が測定値にばらつきを与えるため、実施環境ごとのデータ整理が可能となるよう来年度も継続してデータ収集を行う。

（2）カヌースプリント競技・ボート競技の競技力向上に関するパフォーマンス研究

（主担当 中村）

血液検査によるコンディショニングチェック、動作改善に関するパフォーマンス研究を実施し、U23カヌースプリント世界選手権出場（カナディアンペア第16位）、U23ボート日本代表選手選考会出場（女子シングルスカル）などに貢献した。

(3) セーリング競技における基礎研究の推進（主担当 榮樂）

ヨット競技に関するパフォーマンス研究を3件投稿し、公表された。また、セーリング連盟普及指導委員会へ指導者用資料（テキスト）を提供した。

3. 社会連携・社会貢献関係プロジェクト

新型コロナウイルス感染拡大予防の観点から社会情勢を考慮しつつ、適宜計画した。

(1) 学長杯オープンヨットレース（主担当 榮樂・坂口・笹子・中村）

令和4年8月28日に、第30回記念大会が実施された。

(2) カノヤカップヨットレース大会協力（主担当 榮樂・坂口・笹子）

令和4年8月27日に実施予定であったが、コロナ禍の影響により中止された。

(3) 公開講座（主担当 中村・榮樂・坂口・笹子）

①公開講座A：楽しいマリンスポーツ

令和4年4月10日（日）～5月15日（日）の期間で半日講座を計5回企画した。

②公開講座B：楽しいスキューバダイビング（初級者編）

令和4年5月11日（水）～6月26日（日）の期間で、プール7回（水曜日19時～21時）、海1回（日曜日9時～16時）で、計8回の講座を企画した。8回目は、田尻海岸で海でのスキューバダイビングを実施した。

③公開講座C：少年少女楽しいマリンスポーツキャンプ

令和4年8月2日（火）～8月4日（木）の期間で、小学3年生から6年生を対象としたマリンスポーツ体験を実施した。なお、コロナ禍のため、宿泊を伴わない3日間の活動となった。

(4) マリンフェスタ in かのやへの協力（主担当 中村・坂口・榮樂・笹子）

令和4年7月24日（日）にマリンフェスタ in かのやが開催され、マリンスポーツ部門におけるイベントの企画・実施・運営を担った。また、ヨット部・ウィンドサーフィン部・カヌー部・漕艇部の学生と、関連ゼミ生が運営と安全管理に尽力した。

(5) 国立大隅青少年自然の家との事業協力（主担当 中村・笹子・坂口・榮樂）

継続事業である「海からのメッセージ」事業における安全管理および海洋スポーツ体験を実施予定であったが、本年度は中止となった。

4. その他

(1) 協力者会議の開催（主担当 中村・榮樂）

テーマを「青少年教育施設との実践的な連携事業推進のために」とし、令和4年12月5日に開催した。

(2) 卒業生の海洋スポーツ活動状況調査（主担当 笹子・榮樂・中村）

調査項目の作成を行った。引き続き調査回収を進める。

(3) 競技スポーツにおける試合・合宿への協力

九州学生ヨット選手権大会の開催、鹿児島県ウィンドサーフィン強化合宿の開催を行った。セーリング競技における競技力向上のための試合・合宿に協力する。

(4) 外部団体海洋スポーツ実習の受け入れ

鹿児島南高等学校体育科の2・3年生の海洋スポーツ実習を行った（令和5年度は鹿児島国体の時期に重複するため開催予定なし）。また、都城東高等学校の体育科教員を対象に、海洋スポーツの体験と管理体制の講習を行った。

Ⅲ. 決算報告（附属施設経費（海洋スポーツセンター経費）2,706千円）

1. 教育プロジェクト 0千円

区分	金額	算出内訳
人件費	0千円	—
物件費	0千円	—
その他	0千円	—

2. 社会連携・社会貢献プロジェクト 61千円

区分	金額	算出内訳
人件費	20千円	学長杯ヨットレース学生アルバイト
物件費	41千円	消耗品費 等
その他	0千円	

3. その他 2,645千円

区分	金額	算出内訳
人件費	0千円	—
物件費	2,586千円	燃料費、保守・修繕費、修繕関連消耗品、印刷製本費、その他管理運営費等
その他	59千円	協力者旅費

Ⅳ. その他

1. 発刊物

海洋スポーツ研究第28号を発刊した。

2. 開催会議状況

協力者会議を令和4年12月5日に開催した（Ⅱ. 事業報告4その他（1）記載）。

3. 広報活動

特に目立った広報活動はできなかった。

4. センター利用促進策の成果

令和4年度の利用者総数（のべ人数）は、5,109名で昨年度と比較し、338名の利用者増となった。

5. その他

特になし